

中1のWhy ～?は、それまでの疑問文と決定的に違います。What・Who・Whereは事実を言えば終わりますが、Whyだけは答えが決まっていない—自分で理由を作らなければなりません。だから、ここで初めて「黙る生徒」が出ます。逆に言えば、Why?—Because. が回りはじめた教室は、やり取りが1往復で終わらなくなります。この授業案は、生徒が「なんで!？」と聞きたくてたまらない場面を先に作ってから型を出す、Why?—Because. の導入50分です。

この教材で解決できる悩み

- Why?と聞かれた生徒が黙ってしまう。出ても Because busy. のような単語止まりになる
- 「Why=なぜ、Because=なぜなら」の訳語提示だけで導入が終わり、使う必然性がない
- 質問した側が答えを聞きっぱなしで、やり取りが尋問のようになる

教材の概要

項目	内容
対象	中学1年（SUNSHINE I PROGRAM 6. ONE WORLD I Lesson 6のWhy ～? - Because ～.にも対応）
文法項目	Whyの疑問文と Because ～.（理由の文）※文と文をつなぐbecauseは中2で本格化
形式	授業案A4（印刷版PDF・板書例と理由フレーズの足場つき）
所要時間	50分×1コマ
準備物	マイクに見立てる物が1つあると記者会見の空気が出る（無くても成立します）

授業の流れ（50分）

導入：先生の記者会見（12分）

黒板に、先生の「ちょっと変な本当の事実」を3つ書きます。

- I get up at 4:30.
- I have 120 erasers.
- I don't watch TV.

生徒から日本語で「なんで!？」が出たら、そこで種明かし—「その『なんで』、英語では Why? です」。ここから記者会見を開きます。生徒は記者、先生は回答者。マイクを向けられた生徒が Why? と聞き、先生が Because I make breakfast for my family. のように既習の語彙で理由を明かします。1つの事実について Why? を2～3回受けて、Because ～. を10回近く聞かせるのがねらいです。型の説明より先に、耳にリズムを作ります。

気づき：理由は「文」で答える（8分）

板書を整理します。

Why do you get up at 4:30? - Because I make breakfast.

押さえるのは2つだけ。①Becauseのあとは主語と動詞のある文 (Because busy. でも通じるが、文にすると相手に届く)。②聞いた側は答えに I see! / Nice! を返すまでがIセット。Why?は詰問ではなく興味の合図だと、ここで明示しておくとの後の活動が険しくなりません。直前のPROGRAM 5で学んだ三単現を使って Why does she like cats? - Because they are cute. をI例入れると、復習も兼ねられます。

展開：なんで？記者会見 in ペア (22分)

記者と回答者に分かれ、時間で交代します。回答者は「本当の自分のI文」を言います (I like summer. / I play games every day. など既習の型でよい)。記者は Why? → 回答者は Because ～. —ここからが本番で、記者はもう一度 Why? と掘ります。2回目のBecauseに、その人らしさが出ます (Because I want to be a pro gamer. など)。

- 理由フレーズの足場: it's fun / it's cute / I like ～ / I can ～ / I'm busy / I want to ～ (小学校からおなじみのチャンク)
- 救済ルール: 詰まったら Hmm... I don't know! と笑って交代。沈黙のまま固まらせない
- 仕上げに数ペアを指名し、記者が相方の答えをクラスに紹介します (She likes cats. Because they are cute.)。三単現の口慣らしがもう一周まわります

まとめ：自分に記者会見 (8分)

出口チケットとして、自分で自分にインタビューしたIセット (I like ～. → Why? → Because ～.) を書いて提出。次の時間はPROGRAM 6の題材 (通学路) に、Why do they go to school this way? という問いから入ると、本文を読む理由がそのまま生まれます。

Because busy. を×にしないでください。まず通じたことを認め、板書のモデル文の形にそろえて言い直して返す (リキャスト) 程度で十分です。導入の日の評価軸は正確さではなく、「Why?と聞けた回数」と「I see!が返った回数」。この2つが増えていれば、型はドリルで後から整います。

定着・入試への接続

翌週の帯活動のインタビューに Why? をI問混ぜると、記憶が新しいうちに習慣になります。書く練習は同じ中I範囲の接続詞 because・when のはじめてドリル 中I版へー「対話で言えた」を「紙でも選べる・書ける」に引き上げる位置づけです。becauseは中2で文と文をつなぐ形 (if・when・thatと束で登場) に発展し、高校入試では「あなたの考えと理由」を書く英作文の核になります。その全体像は接続詞の教え方ガイドにまとめてあります。

